

# ベトナムで使用されていた太陰太陽暦について

岡崎 彰

群馬大学教育学部理科教育講座

(2009年9月30日受理)

## Old-time Luni-solar Calendars in Vietnam

Akira OKAZAKI

*Department of Science Education, Gunma University,  
Aramaki, Maebashi, Gunma 371-8510, Japan*

(Accepted September 30th, 2009)

### Abstract

In Vietnam, luni-solar calendars had been used until 1945. Although these calendars were believed to be similar to Chinese ones, it was little known how similar to Chinese ones. In fact, it is only recently that Vietnamese calendars were reconstructed by Hoàng Xuân Hãn and Lê Thành Lân for the period later than the mid-16th century so that some differences between Vietnamese and Chinese calendars can be specified. In this note, we take an overview of the changes of Vietnamese luni-solar calendar system from the late 10th century through 1945 based mainly on the studies by the above two authors. In addition, we briefly survey articles in Vietnamese historical source *Đại Việt Sử Ký Toàn Thư* for the period from the early 14th century through the mid-16th century, during which Vietnamese and Chinese were considered to have had used the same calendar system. The preliminary results of our brief survey show, however, that, among 68 descriptions of the dates and of astronomical phenomena that can be compared with Chinese calendars, 17 of those are found inconsistent with Chinese calendars.

### 1. はじめに

ベトナムは10世紀に入り、約1000年間に及ぶ中国の支配から脱して、独立を成し遂げた。その後も、宋や元、明などから何度か侵攻を受けて一時的に支配されることもあったが、その度に退けてきた。その一方で、紛争のない時期には、ベトナムの歴代王朝は中国皇帝と冊封関係を持ちながら、文化的交流も進めてきた。このような中国との関係は、19世紀後半のベト

ナムの宗主権を巡る清仏戦争の終結まで概ね変わらなかったと考えてよい。このように、ベトナムの文化は中国の影響を強く受けており、近世までのベトナムの書物はほとんど漢文で記録されていた。

独立後(10世紀以降)のベトナムでは、どのような暦が使用されていたのだろうか。中国と同一の暦が使われていたのだろうか、それとも独自の暦が使われていたのだろうか。この素朴な疑問にきちんと答えることは、当たり前のことであるが、使われていた時期

がさかのぼるほど難しい。とくに、ベトナムでは昔の暦に関する資料の多くが失われてしまい、当時の暦法に関する記録がほとんど残っていないため、その困難さは際立っている。

20 世紀前半、当時ベトナムの植民地支配を進めていたフランスは、ベトナムの暦（太陰太陽暦）とフランスの暦（太陽暦）との対照表を必要としていた。前述のような文化的背景があったせいか、Deloustal (1908) や Cordier and Lê Đức Hoạt (1935) は、ベトナムの暦と中国の暦とが同一であるとしてベトナムの暦と太陽暦との対照表を出版している。これらの対照表があまりに広く流布したため、フランス人だけでなく、多くのベトナム人さえもベトナムの暦と中国の暦はずっと同じだったと思い込む傾向が浸透していったといわれている。

しかし、ベトナムの暦が中国の暦と必ずしも同じでなかったことは、日本に残存する資料からも知ることができる。日本人船乗りが 18 世紀後半にベトナムに漂着し、帰国後に記した『安南國漂流物語』に次のような一節がある。「安南の去年（1767 年）の暦をもらひ候に…當亥の閏月あんなん日本はおなじ閏九月、南京の閏は七月に御座候。」（e.g., Ohashi 2004）

冊封関係の象徴として、中国からベトナムに暦が贈られていたことは、双方の各史料に散見される。本稿で調べたかぎりでは、最も古い記録は 1176 年。中国の史料（『宋史 [列傳第二百四十七]』、『文献通考 [卷

三百三十]』）に「淳熙…三年、賜安南國曆日」という記事がある。同様な記事は、1206 年、1265 年、1311 年、1324 年、1331 年、1334 年、1369 年、1540 年、1542 年にも見られる。しかし、暦日を与えるというのは自分の支配下に置くという政治的意味合いがあり、これを受け取った国が自国でそのまま採用していたかどうかは全く別の話である。

その一方で、中国においては暦算の書物を国外に持ち出すことが許されなかったことは、『宋史 [列傳第二百四十七]』の 1107 年の記事「大觀初、貢使至京乞市書籍、有司言法不許、詔嘉其慕義、除禁書、卜筮、陰陽、曆算、術數、兵書、敕令、時務、邊機、地理外、餘書許買。」から知ることができる。さらに、『元史 [列傳第九十六]』の 1301 年の記事「大德五年二月、太傅完澤等奏安南來使鄧汝霖竊畫宮苑圖本、私買輿地圖及禁書等物、又抄寫陳言征收交趾文書、及私記北邊軍情及山陵等事宜、遣使持詔責以大義。」との記述は、禁書は国を巻き込むような非合法的な手段でしか入手できなかったことを物語っている。

## 2. ベトナムの歴代王朝

ベトナムと中国の暦の関係を述べる前に、ベトナムで暦を編纂する立場にあった歴代王朝についてごく簡単に述べておく。

10 世紀後半に呉 (Ngô) 朝、丁 (Đinh) 朝、黎 (Lê)

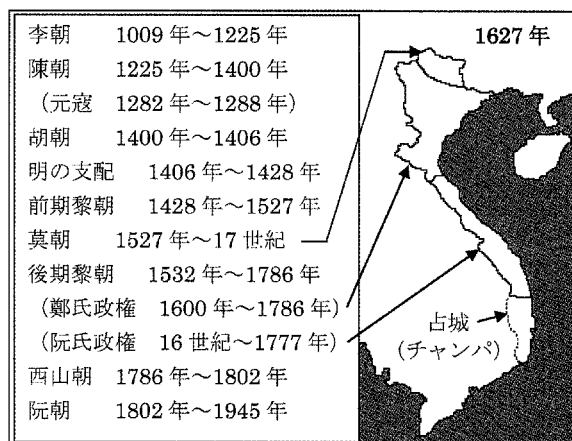


図 1 ベトナム歴代王朝と 17 世紀前半の状況。境界は World History Atlas at KMLA に基づく

朝（前黎朝）という短期の王朝が続いた後、11世紀初めには李（Lý）朝がベトナムを支配し、1054年には国号を「大越（Đại Việt）」と定めた。李朝は1225年まで続いたが、陳（Trần）朝によって滅ぼされた。

その後はしばらくの間、陳朝がベトナムを支配することになる。陳朝は、1257年に南宋に向かうモンゴル軍の侵入を受け、さらに1282年から1288年にかけて、中国を支配したモンゴルの元から数回の侵攻を受けたが、いずれも退けた。その後、陳朝は元と比較的落ち着いた関係を保った。1368年には、中国では元が滅び、明が建った。ベトナムでも1400年に陳朝が滅び、胡（Hồ）朝が興きたが、明との関係が悪化して侵攻を受けた。1406年には胡朝が滅亡し、明の直接支配が続いたが、1428年にベトナムは明の支配を退けて、黎（Lê）朝（後黎朝）が建った。

黎朝は1527年まで続き、莫（Mạc）朝によって滅ぼされた。莫朝の事実上の支配は短期間に終わり、1532年には黎朝が再び興きたが（後期黎朝）、まもなく、北部の鄭（Trịnh）氏と南部の阮（Nguyễn）氏が国を分断して実権を握るようになり、両者の間で紛争が続くようになった（図1）。国の混乱に乗じて1786年に西山（Tây Sơn）朝が建ったが、1802年、阮氏の流れを汲む阮朝によって滅ぼされた。阮朝は1945年まで続いた。

### 3. ベトナムの暦に関する資料

ここでは、現存しているベトナムの暦に関する重要な3つの古資料について述べる。これらの資料はいずれも一定時期の暦を掲載しているが、その暦法や計算の手順は示していない。本節の内容はLê Thành Lân（2003, 2007）に負うところが大きい。

そのひとつは『欽定萬年書（*Khâm Định Vạn Niên Thư*）』で、現存しているものは1849年または1850年に復刻されたものである。この資料は3つの部分に分かれており、第1部には1544年から1630年までの後期黎朝・鄭氏政権の暦、第2部には1631年から1801年までの後期黎朝・阮氏政権の暦、第3部には1802年から1903年までの阮朝の暦が収められている。とくに第1部は16世紀中頃までさかのぼって

ベトナムの暦の状況を知ることができるので、きわめて貴重である。ベトナム国立図書館に整理番号R2200として所蔵されている。

もうひとつの重要な古資料は、1624年から1785年までの暦が収められた『百中經（*Bách Trúng Kinh*）』で、2つの部分から構成されている。このうち、前半部分の出版時期は1739年頃（遅くとも1745年以前）とみなされており、現存する暦関係の資料としては最も古い。そこには後期黎朝・鄭氏政権の1624年から1738年までの暦が収められている。後半部分は、その後に持ち主が手書きで追記した部分で、1739年から1785年をカバーしている。ただし、1775年と1776年の頁は破損していて読めない。現在は、ハノイのハンノム研究院図書館に整理番号A2873として所蔵されている。なお、紛らわしいが、同じ『百中經』と称する別資料（整理番号A2517）が存在する。こちらは、1759年から1886年までの暦が収められている。

三つ目の資料としては『歴代年紀百中經（*Lịch Đại Niên Kỷ Bách Trúng Kinh*）』があり、1740年から1883年までの暦が記されている。全体が手書きで、間違いも少なくないので、資料価値は前述の2つよりも劣る。全体は4つに分かれており、第1部には1740年から1788年までの後期黎朝・鄭氏政権の暦、第2部には1789年から1801年までの西山朝の暦が収められている。第3部は明の大統暦そのもの、第4部は阮朝の暦と考えられている。ハノイのハンノム研究院図書館に整理番号A1237として所蔵されている。

### 4. 『大越史記全書』と『越史略』

ところで、上記の3つの資料に掲載されている時期よりも古い暦については、直接の手がかりは何も残されていない。そのような場合は、当時の史書の記述を網羅的に調べて何らかの手がかりを得るしかない。ベトナムの初期の史書としては、黎文休が1272年にまとめた『大越史記（*Đại Việt Sử Ký*）』があり、古代から1225年までをカバーしていたと伝えられている。その後他の編纂者によって1368年までの記事が追加されたが、滅んでしまったという。以下では、現存す

る重要な史書を2つ紹介しておこう。

現在まで伝わる編年体の史書のひとつとしては、1479年に呉士連が最初に著した『大越史記全書 (Đại Việt Sử Ký Toàn Thư)』がある。呉士連の注釈によれば、『大越史記』と重なる時期の記事については、それを土台とし、さらに他の資料も参照して手を加えたという。『大越史記全書』はその後も後継者によって次々と記事が追加され、最終的には、呉士連の編纂による太古から967年までを収めた「外紀」、968年から1427年までを記した「本紀」、1428年から1532年までの記事を収めた「本紀実録」、1533年から1662年までを記した「本紀続編」、1663年から1675年までの記事を収めた「本紀続編追加」、さらに1676年から1789年までを扱った「大越史記続編」も加えて、全二十九巻の構成となっている (陳 1977)。

一方、『越史略 (Việt Sử Lược)』という全三巻の編纂者不詳の史書があり、中国の「守山閣叢書」などに収められている。この叢書の注釈には、越史略がもともとベトナムから伝わったものであることが明記されており、オリジナルは本国のベトナムで滅びてしまったとみられている。越史略には古代から1225年までの記事が含まれており、黎文休が編んだ「大越史記」の記事年代と一致していることから、両史書には

密接な関係があると考えられている (山本 1950、陳 1980)。

## 5. 中国とベトナムの暦の比較研究

### 5.1. 章用 (1940) による研究

中国とベトナムの暦 (太陰太陽暦) の比較研究の初期の重要な仕事としては、1940年に中国の章用 (Zhang Yong) が近世の暦を調べた『越曆朔閏考』がある。章用は、前述の『百中經』の中で紹介した同名の別資料 (整理番号 A2517) にある1759年から1886年までの暦 (後期黎朝・鄭氏政権～西山朝～阮朝) を丹念に調べ、中国の暦 (時憲暦) と食い違いのあることを指摘した。具体的には、該当の127年間で、閏月の置き方の異なる事例10件、月の大小の置き方が前後にずれている事例31件を指摘した (図2)。

### 5.2. Hoàng Xuân Hãn (1982) による研究

1980年代に入ると、もっと古い時代の暦も含めて本格的な研究が行われるようになった。

ベトナムの著名な学者であった Hoàng Xuân Hãn は、史書『大越史記全書』、『越史略』等に記載されている閏月の調査 (図3) や、資料『百中經』 (整理番号

表 一

公 元	年 建	清 朝	黎 紀
1759	己卯	乾隆24年二小壬子 三大辛巳 閏六小己卯 七小己酉	景興20年二大壬子 三小壬午 閏六小己卯 七大戊申
1762	壬午	27年二小乙丑 三大甲午 五小甲午 閏五小癸亥	23年二大乙丑 三小乙未 閏四小甲午 五小癸亥
1763	癸未	28年七小丙辰 八大乙酉	24年七大丙辰 八小丙戌

図2 中国の暦 [清朝] (左側) とベトナムの暦 [後期黎朝・鄭氏政権] (右側) の相違表の一部 (章用, 1940 より)

Bảng Sự-khiện có LỊCH-TÍNH trong sử-liệu						
Năm	C.L.*	Triều Việt Th.Nh.**	Triều Tống Th.Nh.**	Xuất-xứ		
K-Tị	969	Đinh Tiên-h.	5	Tống Thái-tổ (Ung-thiên 1.)	5	VSL 2/17a; TT 13a
N-Ng	1042	Lí Thái-tổ	9	Tống Thái-tế (Sung-thiên 1.)	9	TT 2/30b
M-Ng	1078	Lí Nhân-tế	1	Tống Thần-tế (PhụngNguyên)	1	VSL 2/16
C-Tâ	1080	Lí Nhân-tế sau 8	8	Tống Thần-tế (PhụngNguyên)	9	VSL 2/17a
G-Th	1124	Lí Nhân-tế	1	N.Tế Huy-tế (Kí-Nguyên 1.)	3	TT 3/22b
B-Ng	1126	Lí Nhân-tế	11	N.Tế Khâm-tế (Kí-Nguyên 1.)	11	TT 3/24b
K-Zu	1129	Lí Thần-tế	8	N.Tế Cao-tế (Kí-Nguyên 1.)	8	TT 3/34a ngay N-Ng )

\* Công lịch

\*\* Tháng Nhuận

図 3 Hoàng Xuân Hãn (1982) による中国の暦とベトナムの暦の閏月の比較表の一部 左から「年の干支」「西暦年」「ベトナム皇帝名」「ベトナムの閏月」「中国皇帝名」「中国の閏月」「出典」(TT は『大越史記全書』、VSL は『越史略』を表す)

A2873) に収められている暦を手掛かりにして、10 世紀以降のベトナムの暦の変遷について検討し、さらに 1644 年から 1999 年までのベトナムの暦を再現した。

その集大成として 1982 年に『*Lịch và Lịch Việt Nam* (暦とベトナムの暦)』を出版している。その中で、11～13 世紀の時期にはベトナムの暦は中国の暦と違っていたが、14 世紀初めから中国の暦(授時暦、大統暦)と同じ暦法が採用されるようになった。中国で時憲暦が採用されてから再び食い違うようになったが、19 世紀前半に阮朝が時憲暦の暦法を採用して食い違いはなくなった、と主張した。

### 5.3. Lê Thành Lân (2003, 2007) による研究

1990 年代になると、ベトナムの暦の研究に関して新たな展開があった。Lê Thành Lân はそれまでほとんど知られていなかった資料『欽定萬年書』と『歴代年紀百中經』を“発掘”し、さらに Hoàng Xuân Hãn (1982) が調査した『百中經』にも注目して、これら 3 資料を詳細に分析しながら、各時代の暦についての報告を次々と発表した。

その集大成として 2003 年に英文の報告『*Vietnamese Old-Time Calendars*』、2007 年に労作『*Đổi chiếu lịch Dương với lịch Âm-Dương của Việt Nam và Trung Quốc 2030 năm [0001 - 2030]* (2030 年間 [0001 年

～2030 年] の太陽暦とベトナム・中国の太陰太陽暦との対照表)』を出版している。後者の書名は 0001 年から 2030 年までとなっているが、実際にベトナムの暦を再現しているのは 1544 年以降に限られる。それ以前については、同表ではベトナムと中国の暦は同じとして扱っている。もちろん、その時期に両暦が同じだったという主張をしているわけではなく、暦を再現する手がかりとなる資料がないために、便宜上、そのような表記にしているにすぎない。とはいえ、Hoàng Xuân Hãn (1982) の場合と比べてベトナムの暦の再現が 100 年さかのぼることができたわけで、その意義は大きい。

図 4 に掲げたのはその対照表の一例である。各暦の横方向(左から右)の項目は西暦年の月、縦方向(上から下)の項目は西暦年各月の日を表している。表中の数字は各暦での日付を表し、朔の位置(2 の直前)の黒地白抜き文字は各暦での月を示している。濃い灰色背景の部分が暦の食い違う部分を示している。

このほか、Lê Thành Lân は、西山朝の暦を初めて明らかにしたり、黎朝の鄭氏政權と阮氏政權の暦を比較したりしているが、なかでも注目されるのは、Hoàng Xuân Hãn (1982) がベトナムと中国とで同じ暦法を使用していたとされる時期にも、若干の食い違いがあることを指摘した点であろう。

Năm 1661, Tân Sửu 辛丑											
1661, Tân Sửu 辛丑 Lê Mạt 黎末, Vĩnh Thọ 永壽 4 (Mac, Thuận Đức 順德 24)						1661, Tân Sửu 辛丑 Nam Hê 南河, Nguyễn Phúc Tần 阮福添 14					
1661, Tân Sửu 辛丑 Thanh Thành, Thuận Trị 順治 18											
DL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	chp	3	hư	3	3	5	6	7	8	9	10
2	2	4	2	4	4	6	7	8	9	10	11
3	3	5	3	5	5	7	8	9	10	11	12
4	4	6	4	6	6	8	9	10	11	12	13
5	5	7	5	7	7	9	10	11	12	13	14
6	6	8	6	8	8	10	11	12	13	14	15
7	7	9	7	9	9	11	12	13	14	15	16
8	8	10	8	10	10	12	13	14	15	16	17
9	9	11	9	11	11	13	14	15	16	17	18
10	10	12	10	12	12	14	15	16	17	18	19
11	11	13	11	13	13	15	16	17	18	19	20
12	12	14	12	14	14	16	17	18	19	20	21
13	13	15	13	15	15	17	18	19	20	21	22
14	14	16	14	16	16	18	19	20	21	22	23
15	15	17	15	17	17	19	20	21	22	23	24
16	16	18	16	18	18	20	21	22	23	24	25
17	17	19	17	19	19	21	22	23	24	25	26
18	18	20	18	20	20	22	23	24	25	26	27
19	19	21	19	21	21	23	24	25	26	27	28
20	20	22	20	22	22	24	25	26	27	28	29
21	21	23	21	23	23	25	26	27	28	29	30
22	22	24	22	24	24	26	27	28	29	30	nhu
23	23	25	23	25	25	27	28	29	30	nhu	2
24	24	26	24	26	26	28	29	30	nhu	2	3
25	25	27	25	27	27	29	30	nhu	2	3	4
26	26	28	26	28	28	30	nhu	2	3	4	5
27	27	29	27	29	29	31	nhu	2	3	4	5
28	28	30	28	30	30	nhu	2	3	4	5	6
29	29	31	29	31	31	nhu	2	3	4	5	6
30	30	nhu	2	3	4	5	6	7	8	9	10
31	31	nhu	2	3	4	5	6	7	8	9	10

図 4 Lê Thành Lân (2007) によるベトナムと西暦、中国の暦と西暦との対照表の一部 西暦 1661 年における後期黎朝における鄭氏政権の暦(左)と阮氏政権の暦(中)と中国清朝の暦(右)の例

## 6. ベトナムの暦の変遷

以下では、前述の先行研究などによって明らかにされた 10 世紀以降のベトナムの暦の変遷の状況を要約する。

### 6.1. 10 世紀後半から 13 世紀まで

10 世紀後半から 13 世紀までのベトナムの暦については詳しいことはわかっていない。当時の出来事を知るには、現存するベトナム史書『大越史記全書』、『越史略』等の記事を探るしかないが、この期間、暦についての記述は見当たらない。しかし、Hoàng Xuân Hãn (1982) は、以下に掲げる事実から、おそらく当初は中国の暦をそのまま使用していたが、李朝が国号を大越と定めて間もない頃(1080 年頃)から独自の暦を使用するようになったと推測している。

『大越史記全書』、『越史略』や他の史料に記載されている閏月(各史料には各年毎月の記事が載っているわけではないので、閏月の一部しか記載されていないことに注意)を年代順に調べてみると、最初の 3 例

(969 年、1042 年、1078 年)は、いずれも閏月の置き方が当時の中国の暦と一致していた。一方、1080 年から 1300 年までに記載されている閏月、さらに月の大小も含めて 13 例について調べてみると、1080 年を含む 9 例が中国の暦と異なっていた。したがって、ベトナムでは、遅くとも 1080 年以降は、中国から贈られた暦をそのまま使うことはなかったと解釈するのが自然である。おそらく、以前に中国から伝わった暦法のひとつを利用して独自に計算をしていたのではないかと推測される。この時期、宋では数年から数十年ごとの頻度で暦を変更していたので、当時のベトナムが頻繁な暦の変更を嫌ったのではないかとの見方もある。

### 6.2. 14 世紀から 17 世紀中頃まで

Hoàng Xuân Hãn (1982) によれば、『大越史記全書』等のベトナム史料における 14 世紀から 17 世紀中頃までの陳朝、胡朝、明支配時期、黎朝、莫朝、黎朝(鄭氏)の記述を前述の方法で調べてみると、1306 年から 17 世紀中頃までに記載されている閏月については全てが中国の暦(元の授時暦・明の大統暦[両暦は

実質的に同じ暦法とみなすことができる]』と一致していた。一方、『百中經』に記載の(後期黎朝・鄭氏政権の)暦を調べてみると、両国の暦は1640年代後半から食い違いが生じ始めていた。中国では1644年に明から清に変わり、暦法が大統暦から時憲暦に変更された。このことから、ベトナムでは14世紀初頭から王朝が交代しても、当時の中国と基本的に同じ暦法(授時暦・大統暦)を用いていて、1644年以降も引き続き、その暦法を採用し続けたと解釈される。実際、Hoàng Xuân Hãn (1982) は、大統暦の暦法で1644年以降の暦を計算すると、『百中經』の暦を実質的に再現できることを示している。

しかし、Lê Thành Lân (2003, 2007) は、中国と同じ暦法を用いていたとされる1644年以前の期間においても、ベトナムと中国の暦には、たとえば、1544年以降の100年間で1閏月、11朔日の食い違いのあることを指摘している。この食い違いは、暦法の違いというよりその適用の仕方の違いによるものと考えられ、そうであれば、当時のベトナムが独自に暦を計算していた証と見ることができる。

『大越史記全書』には、1339年、鄧輅(Đặng Lộ)の提言により「授時暦(lich Hiệp Kỷ)を協紀暦(lich Thụ Thời)に改める(春、改授時暦爲協紀暦)」との記述があり、当時の陳朝の暦が元の授時暦の暦法に従っていたことを物語っている。鄧輅は陳朝の天文学者で観測器械を発明し、暦法にも通じていたといわれる。やはり陳朝の時代に各分野で活躍した陳元旦(Trần Nguyên Đán)が著した『百世通紀(Bách Thế Thông Kỷ)』には暦法の記述があったとされるが、現在は失われて存在しない。1401年には、陳朝を滅ぼしてベトナムを支配した胡朝が「陳氏の協紀暦を順天暦(lich Thuận Thiên)に改める(漢蒼改陳氏協紀暦、行順天暦)」との記述がやはり『大越史記全書』に残されている。以上の2つの改暦は、実質的には名称変更だけで、暦法の改定はなかったと考えられている。

1406年から1428年までは明の直接支配を受けていたので、大統暦が直接に使われたとみなされている。1428年に興った黎朝で使用されていた暦の名称については記録が残されていないが、1532年に再興された黎朝の鄭氏の暦は欽授暦(lich Khâm Thụ)と呼ば

れていた。一方、阮氏の暦は萬全暦(lich Vạn Toàn)と呼ばれていたことが知られている。

### 6.3. 17世紀中頃から19世紀初めまで

Lê Thành Lân (2003, 2007)によれば、黎朝の鄭氏の欽授暦と阮氏の萬全暦との間には、時期の重なる1631年から1788年までの158年間で、11閏月、36朔日の食い違いがあったという。ただし、両暦とも、とくに1644年以降は、相互の食い違いよりも中国の時憲暦との食い違いの方がずっと多い。以上のことから、鄭氏の欽授暦、阮氏の萬全暦とも、それぞれ独自の計算により作成されていたものとみられている。

また、Lê Thành Lân (2003, 2007) は、1786年に興った西山朝の使用した暦についても分析している。それによれば、1789年から1801年までの13年間では、中国の時憲暦との食い違いは3朔日だけなのに対して、阮氏の萬全暦と食い違いは3閏月、2朔日と大きい。このことから、西山朝の暦は中国の時憲暦に近いものだったとする見方をしている。

### 6.4. 19世紀初め以降

阮氏の流れを汲んで1802年に建った阮朝の暦は、当初は阮氏時代の名前を引き継いで、萬全暦と呼ばれていた。しかし、如清使を務めていた阮有慎(Nguyễn Hữu Thận)が、時憲暦の暦法を記載した書物『曆象考成』を持って帰国し、帝に対して清の時憲暦の優れた点を説き、その暦法を取り入れるように訴えた。それを受けて、阮朝は1812年、時憲暦の暦法で計算した新たな暦「協紀暦(lich Thụ Thời)」を採用した。協紀暦という名称は陳朝時代にも使用されていたものと同じで紛らわしいが、両者には何の関係もない。これ以降、ベトナムと中国は同じ暦法による暦を使用するようになったが、また、Lê Thành Lân (2003, 2007)の調査によれば、1813年から1903年までの91年間で両暦には4朔日の食い違いが見られるという。なお、阮朝時代には当時の首都フエの経緯度が測定されている。

1886年にベトナムはフランスの直轄地と保護国とに分断されたが、阮朝が行政権を認められていた地域では、1941年以降の日本軍の進駐時も含めて、そ

のまま協紀暦を使用し続けた。しかし、1945年に第二次世界大戦が終結してベトナムが共和国となってからは、太陰太陽暦が公式に使用されることはなくなった。しかし、民間では今でも、年中行事などに太陰太陽暦が広く使われている。

## 7. 『大越史記全書』記事の予備調査

以上に見てきたように、1544年以降については少ないながらも資料が残されているので、ベトナムの暦の変遷に関してある程度の具体的な様子を知ることができる。しかし、それ以前については、当時の暦を記載した資料が見つからない限り、『大越史記全書』、『越史略』等の史書以外には手がかりはまったくない。そこで、これらの史書の記載内容の中から少しでも当時の暦を知る手がかりになるものを拾い出し、先行研究の結果、とくに Hoàng Xuân Hãn (1982) の研究結果との整合性を調べることにした。

先に述べたように、Hoàng Xuân Hãn (1982) が中国と同じ暦法を用いていたとしている1306年から1643年までのうち、Lê Thành Lân (2003, 2007) は1544年以降の100年間で1閏月、11朔日の食い違いのあることを指摘している。したがって、今回は予備調査として、Lê Thành Lân (2003, 2007) の対象外だった1306年から1543年までの238年間について、上記の立場から『大越史記全書』(陳荊和校合本)の記事(閏月や日の干支、[日を特定できる]天文記録の記載記事)を調べた。その結果、ベトナムと中国の暦

の比較調査という目的に適した記事が68例見つかったが、そのうち17例の内容は両者の暦が同じとする見方と整合しなかった。その一部を表1に掲げる。

興味深いのは、そのような記事の出現が限られた時期に集中していることである。1306年から1543年までの238年間のうち、1306年から1434年までの最初の129年間には調査対象となる記事が18例あり、どの記事内容も両者の暦が同じとする見方と整合していた。次の1435年から1475年までの41年間には、21例の記事のうち2例だけが両者の暦が同じとする見方と整合していなかった。そして、最後の1476年から1543年までの68年間には、29例の記事のうち15例も整合していなかった。『大越史記全書』の記載内容については、写本を繰り返す中で誤りが生じた可能性のあることを考慮しなければならないが、上記の出現時期の偏りはそれだけでは説明しにくい。ひとつの可能性として、両国で暦法は同じでも、15世紀後半から計算における累積誤差等のために食い違いが目立って現れるようになったとの見方もできる。

## 8. まとめ

ベトナムの暦に関する章用(1940)、Hoàng Xuân Hãn (1982)、Lê Thành Lân (2003, 2007) の研究結果を紹介し、それらに基づいて10世紀以降のベトナムの暦の変遷についてまとめた。また、ベトナムの暦と中国の暦の比較という観点から、14世紀初めから16世紀中頃までの『大越史記全書』の記事について、

表1 中国の暦と整合しない『大越史記全書』の記載内容(一部)

西暦年	記載内容	中国の暦・天文記録*
1443年	「夏四月…望月有食之」	五月己巳夜、月食
1480年	「十二月丁酉」	十二月に丁酉の日は存在せず
1496年	「閏二月」**	閏月は閏三月
1504年	「十月十八日甲辰」	十一月十八日甲辰
1505年	「二月十六日甲戌…十八日丙子」	二月十六日壬申…十八日甲戌
1522年	「七月三十日」	七月は小の月

\* 「二十史朔閏表・附西曆回曆」と「中国古代天象記録総集」による。

\*\* Hoàng Xuân Hãn (1982) のリストでは「閏三月」となっている。



閏月や日の干支、(日の特定できる)天文記録が記載されている記事の予備調査を行った。

独立後の10世紀後半から13世紀末頃までは詳しくは不明であるが、中国の暦と異なっていたとされる。14世紀初めから17世紀中頃までは概ね中国の暦と同じであったが、17世紀中頃から急速に食い違いが目立ち始め、19世紀前半にベトナムが中国の当時の暦法(時憲暦)を採用するまで続いたと見なされる。これらの状況から、14世紀初めから19世紀前半まで、ベトナムが中国の授時暦(大統暦)の暦法に基づいて独自に暦を作成していた計算していたと推定されている。食い違いが生じた原因は、中国で1644年に時憲暦が採用されたことと理解されている。

しかし、両国の暦法が同じだったとされている14世紀初めから17世紀中頃までの期間にも、数は少ないが、いくつかの食い違いが認められている。この食い違いは、暦法の適用の仕方の違いによるものと考えられ、当時のベトナムが独自に暦を計算していた証と見ることができる。今回の予備調査の結果も併せて考えると、そのような食い違いが目立つようになったのは15世紀後半あたりからと見なしてもよいかもしれない。しかし、資料が不十分なため、確定的な結論を下すことはできない。

#### 謝辞

ベトナムの暦に関する貴重な資料をお送りいただいた蓮田隆志氏と大橋由紀夫氏に深く感謝いたします。

#### 参考文献

Cordier and Lê Đức Hoạt 1935, *Concordance des Calendriers Lunaire et Solaire de 1802-2010*,

Imprimerie Chanphung, Hanoi

Deloustal, R. 1908, *Calendrier Annamite-Français de 1802 à 1916, avec une Liste Chronologique des Rrois d'Annam*, Imprimerie d'Extrême-Orient Hanoi, Haiphong

Hoàng Xuân Hãn 1982, *Lịch và Lịch Việt Nam*, Phụ trương Tập san Khoa học xã hội, Paris

Lê Thành Lân 2003, *Vietnamese Old-Time Calendars*, SEACOM Studien zur Südost-asienkunde, Bd.6, pp.7-19

Lê Thành Lân 2007, *Đối chiếu lịch Dương với lịch Âm-Dương của Việt Nam và Trung Quốc 2030 năm [0001-2030]*, NXB Giáo Dục, Hà Nội.

Ohashi, Y. 2004, *On the History of Vietnamese Mathematics and Astronomy*, 李兆華主編「漢字文化圏数学伝統と数学教育」, (科学出版社, 北京), pp.112-123

陳 垣, 1962, 「二十史朔閏表・附西曆回曆」(中華書局出版, 北京)

章 用 1940, 「越曆朔閏考」, 西南研究, No.1, pp.25-35

陳 荊和 1977, 「大越史記全書の撰修と伝本」, 東南アジア 一歴史と文化一, No.7, pp.3-36

陳 荊和 1980, 「『大越史略』 一その内容と編者一」, 山本達郎博士古稀記念論叢編集委員会編「東南アジア・インドの文化」第2巻(山川出版社, 東京), pp.143-155

北京天文台主編 1988, 「中国古代天象記録総集」(江蘇科学技術出版社, 北京)

山本達郎 1950, 「越史略と大越史記」, 東洋学報, Vol.34, pp.53-76